



NO.1009

2015・3・8

発行所

日本共産党
網走市委員会
網走市北八西三
電話四三・四四五八
F 四三・四四五七

3月予算議会 始まる

3月3日(火)第1回定例会が開会し、会期を20日までの18日間と決め、水谷市長が市政執行方針、木目沢教育長が教育行政執行方針を述べました。

国の緊急経済対策を受けてのプレミアム商品券発行や地方創生先行事業等の29事業、約4億4千万円を補正予算として3月5、6日に各委員会で審議されます。

さらに提案された、2015年度一般会計、特別会計、水道事業会計予算案の12件は10日・11日の代表質問後の12日、18日間の集中審議で予算審査特別委員会で審査されます。

網走市が、国の悪政を市民のくらしにそのまま持ち込むのか、くらし・福祉・子育てを守る「防波堤」の役割をはたすのか、これが問われる大事な議会です

いま地方は、住民のくらしの困難、福祉・医療の危機、地域経済の衰退など、深刻な問題に直面しています。地方の衰退は、長年の自民党政治が招いたものです。消費税増税と円安誘導による物価高が、くらしと地域経済を直撃しています。

このような中、安倍政権は、社会保障予算の「自然増削減」路線を復活させ、あらゆる分野での制度改善・削減に乗り出そうとしています。「医療改革」と称して、負担増と切



り捨てを推進しています。国保の運営主体を市町村から都道府県に移行させようとしています。その狙いは、市町村が行っている国保への公費支援をやめさせようというもので、国保料のさらなる引き上げにつながります。

後期高齢者保険料の大幅引き上げ、病床削減・患者追い出しの強化を計画中です。介護保険改悪もひどいものです。「要支援1・2」の介護給付打ち切り、特養ホーム入所「要介護3以上」への限定と介護報酬を過去最大規模で削減し、介護事業所が立ち行かなくなる事態も予想されます。

子育て支援も、国や自治体の公的支援を後退させる「子ども・子育て支援新制度」の新年度実施を強行しました。

このように、くらしが大変になっていくときだからこそ、網走市が、安倍政権の社会保障大削減、くらし圧迫の悪政を、そのまま持ち込み、市民に負担を強いるのか、それとも、市民を守る「防波堤」としての、本来の役割をはたすのか、鋭く問われています。

日本共産党議員団は、市民のくらし・福祉・子育てを守り応援する予算に少しでも近づけるよう頑張ります。

菊地ひろし まっしぐら

先日地域の「つどい」に飯田議員と参加しました。

今回は市営住宅、道営住宅にお住いのみなさんの要望を聞かせてもらいました。「換気口から雨が入ってくる、24時間換気扇を回していないと部屋の中の湿気がひどくて大変だ。どこに言いに行ったらいいのですか?」「公園の滑り台やブランコの位置が少し移動されると除雪が楽なのは」「後期高齢者の医療費が高いが、私の世帯はどうにかならないでしょうか」など、どれも切実な問題です。

私と飯田議員は「対市交渉や一般質問、対道交渉などもしている。これからも暮らしやすい街にするために、周りのみなさんと一緒に頑張ります」と市民の声で動く市政にするため、共産党へのご支援をと呼びかけました。

松浦 奮戦メモ

いま地域を訪問していますが、安倍政権の暴走政治に対して不安と怒りの声がたくさん聞かれます。

「集団的自衛権行使容認、その具体化として安保法制を押し通そうとしている。このままだと日本はどこに行ってしまうのか、この暴走を止められるのは共産党しかないので頑張っています」との声です。

また、年金生活者など低所得者は「今年も年金が下げられる、その上マクロスライド制度もつと下がる。消費税は上がるし物価も上がり介護保険料も上がり苦しい生活を余儀なくされている。それなのに国は、私ら庶民に、これでもか、これでもかと負担を押し付けてくる」と怒っています。

その怒りを市議選で共産党の2議席確保で安倍政権に地方から審判を下しましょうと訴えています。

流水

▼赤旗本紙や東京新聞に、沖縄で基地建設に反対する人々を撮り続ける影山あさ子監督の写真が大きく載った。辺野古の海で海上保安官に馬乗り

され、カメラを奪われそうになっている連続写真。▼昨年の夏、来網し網走母親大会に来ていただき、映画「ONE SHOT ONE KILL」や最新の沖縄の様子を撮ったニューズリールを上映し、話をしてもらった。▼当初は本拠地とする札幌から来る予定で、これなら呼べる、とお金はないが今の沖縄が知りたい、と実行委員会が企画。▼しかし、母親大会が近づいた8月中旬、辺野古の海は米軍新基地建設強行にむけ、立ち入り禁止範囲をしめすブイやフロートを設置し海底ボーリング調査の足場も組み、と刻々と緊張が高まり影山さんは辺野古の海から直行で飛んできてくれた。▼秋口に「『圧殺の海 沖縄・辺野古』が完成しました」と上映の案内が届いたことは依然も書いたが「衝撃的だった。ひどいことが起きていく」と会場で配られていたパンフ等を送ってくれた若者、「毎日、満員で昨夜一時間並んでやっと観てきた」という東京の友人からは「日本のマスコミが、本土の人間が『オール沖縄』のように立ち上がれば米軍基地も地位協定もなくなる」と、会場で語ったという前泊博盛氏の言葉を手紙に書いてきた。▼国は真実を知らせたくないのだ、と馬乗りされた影山さんの写真を見つめる。「周到に準備された『無関心の壁』に一穴を穿ちたい」という監督の言葉が心に焼きつく(た)